

普及事業

鉄門について広く知っていただくよう埋蔵文化財センターでは、年に数度、鉄門を利用したイベントを開催しています。前のページで紹介した石落とし体験もその中のひとつです。

石落としの他にもいろんなイベントを行っています。

例えば…

フラ板 ストラップ作り体験

甲府城から出土した遺物をモチーフにしたフラ板ストラップ作りを行いました。



体験の様子



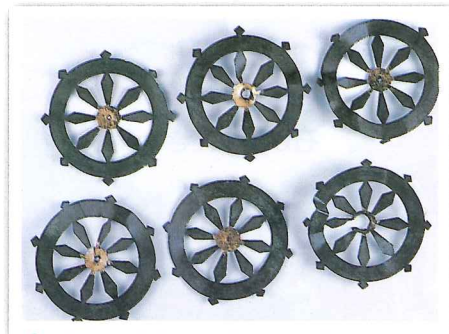
完成した作品!!

拡大図



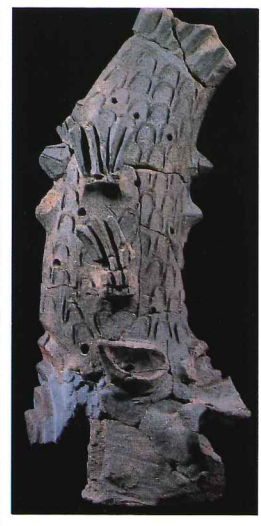
甲府城の遺物たち

ストラップのモチーフにしました



輪宝

地鎮祭に用いられた道具。建物を建てる際などに、工事の無事を願って埋められました。



鯨瓦

人質曲輪から出土しました。金箔や朱が付着していたことから豊臣秀吉の時代（築城期）のものであろうと考えられます。鉄門に載っている鯨瓦の参考にされています。



大型円形丸瓦
(直径約 36 cm)

甲府城を築城した浅野家の家紋「違い鷹の羽」が刻まれています。

この他にも甲府城跡からは様々な遺物が出土しています。県指定の有形文化財となったその多くは県立考古博物館で展示しているので是非見にお越し下さい!!

編集後記

秋も深まり、肌寒くなってきました。今回の埋文やまなしでは、甲府城跡に復元整備された鉄門についてご紹介しました。甲府城跡の新たな見所として、興味を持っていただけたら幸いです。

山梨県埋蔵文化財センター

埋文やまなし 第45号

発行日 2013年11月11日

編集・発行 山梨県埋蔵文化財センター
〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町923
Tel 055-266-3016

印刷 (株) 峽南堂印刷所

山梨県埋蔵文化財センター

ARCHAEOLOGICAL CENTER
OF
YAMANASHI PREFECTURE

埋文やまなし

<http://www.pref.yamanashi.jp/maizou-bnk/> 2013.11.11

第45号

特集!! 鉄門!!



県指定史跡甲府城跡に、およそ140年ぶり復元整備された鉄門。平成26年1月10日、竣工から一周年を迎えます。埋文やまなし第45号では、この鉄門にスポットを当ててみたいと思います。

鉄門(くろがねもん)って??

上の写真は甲府城跡に復元整備された鉄門(くろがねもん)です。平成22年から復元整備が進められ平成25年1月に完成しました。その名のとおり門ではありますが、ただの門ではありません。よく見てみると門の上の方に窓があることが確認できます。実はこの門には二階があり、上にあがることができます。

二階に上がってみると、床の端に蓋付きの窓のようなものが付いている箇所があります。

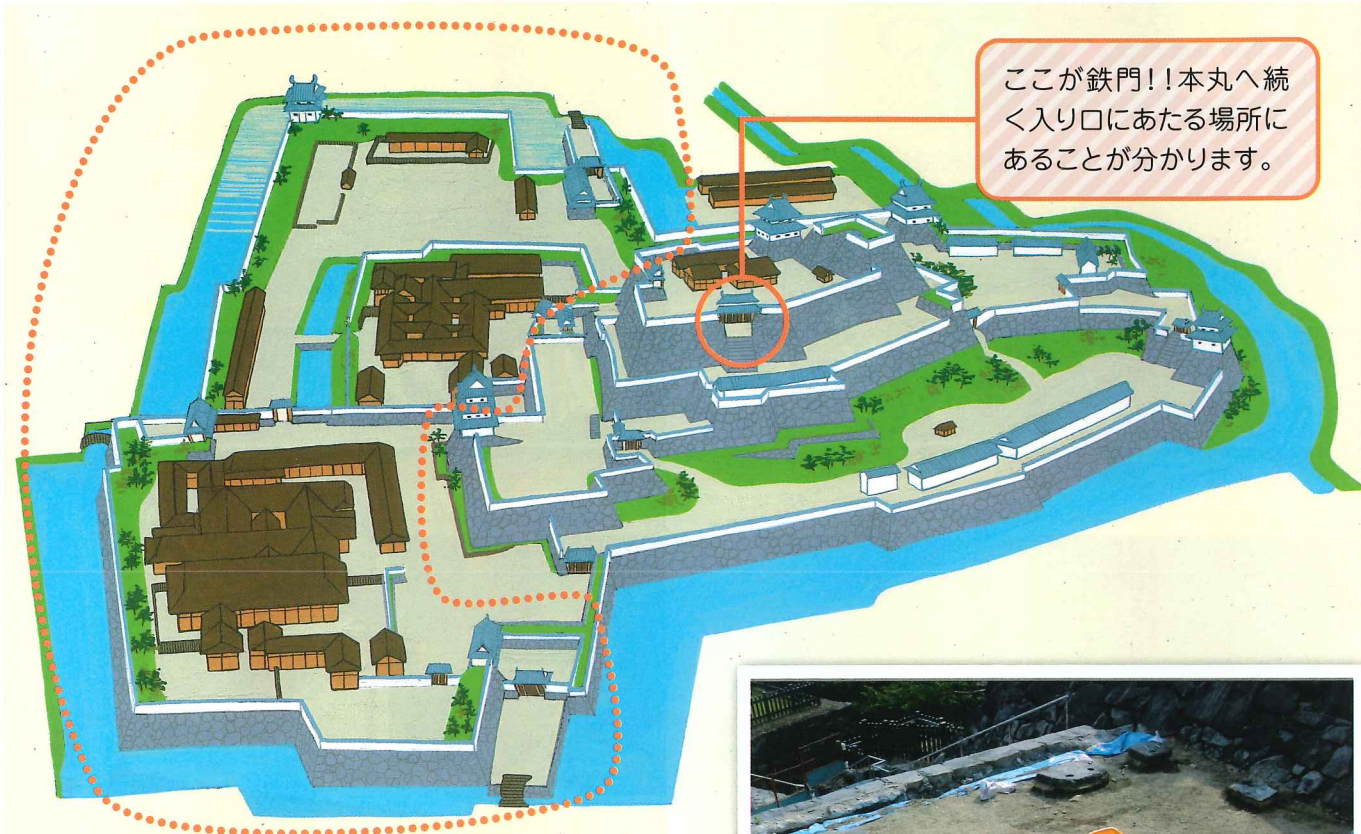
なぜこのような構造になっているのでしょうか?
また、鉄門という名称は、どこからきたのでしょうか?
次のページから鉄門の秘密にせまってみましょう!



鉄門の2階。窓側の床に蓋が…?

鉄門ってどこにあるの??

鉄門は、歴史史料などから江戸時代はじめの甲府城の築城期から明治の初年まで存在が確認されています。



ここが鉄門!!本丸へ続く入り口にあたる場所にあることが分かります。

(このあたりは、現在は甲府駅や県庁舎等になっています)

この場所に復元された根拠として、発掘調査で10個の礎石と2箇所の溝が見つかったこと、江戸時代の絵図の記述と一致したことなどが要因となっています。また、礎石が見つかった場所の両側の石垣からも鉄門の梁ののせたとみられる跡が見つかっています。



鉄門跡の発掘調査の様子

調査で発見された礎石は、復元で再利用され、足りないところは補填されています。

鉄門の石垣



左の写真は、鉄門が復元される前に撮影されたものです。観察してみると、大小様々な大きさの石が使用されているのが分かります。この石垣は「野面積み」という技法で積まれており、ほぼ自然のままの状態の石が使用されています。

また、大きな石が縦に積まれていることも確認出来ます。これは「鏡石」といいます。大きな石をあえて縦方向に積むことで築城技術の高さを示したものと考えられています。野面積みも鏡石も築城期(豊臣秀吉の時代)に築かれた石垣に多く見られる特徴です。(鉄門に限らず、甲府城の石垣の多くは、野面積みで築かれていることが確認できます。)

なぜ「鉄」門なの??

当初は、本丸の南側にあったことから「鉄門」ではなく、「南門」と呼ばれていたことが江戸時代の資料から確認されています。

宝永元年、当時五代将軍綱吉の側用人として活躍していた甲斐源氏の流れをくむ柳沢吉保が城主となった時に名称が変更され、「鉄門(くろがねもん)」となりました。ちなみに、「鉄門」と名称が変わった理由として、門扉に鉄板が貼られていたためと考えられています。

写真の大扉をはじめとする一階部分のほとんどはケヤキ材が使用されています。この他にも、県内外から集められたヒノキやマツといった材木が、昔ながらの工法で加工され鉄門の各所に使用されています。



鉄門の大扉

なぜ二階があるのだろう?

鉄門は本丸の南にある二階建ての櫓門(やぐらもん)です。櫓門とは、門の上に櫓が載った形式の門をいいます。二階には窓があり、外の様子を監視することができます。また侵入者を攻撃するための石落とし(いしおとし)を備えています。



櫓部分

石落としを実際に使ってみよう!
侵入者をやっつけろ!!

※石落としは通常は解放していません。

櫓門は、門としての格式が高く、お城の中の主要な門にみられる形式でもあります。屋根の上には鯨や装飾瓦が載り、本丸の正面玄関にふさわしい見た目も豪華な作りになっています。

鉄門の鯨瓦

復元に際しては実際に甲府城から出土した遺物が参考になっています。(遺物紹介の項目をご覧ください!)



うわぁ!!
石が落ちてきた!!

ここから石が落ちます!



実は、鯨には名前が付いています!!
阿形(口を開けている方)が「シャッチー」、吽形(口を閉じている方)が「ホコチー」といいます♪